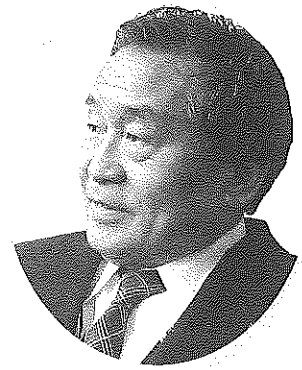


和顔愛語



佐藤 昭二

萬事(よろずごと)の源は「志」にあり

新年明けましておめでとう御座います。

昨年日本を取り巻く世界情勢は私達の想像をはるかに超えた所に有るようだ。対応する日本の政治のあり方のお粗末さは、ただただ「恥」の一語に尽きる。何故こうもお粗末なのだろう。そこに見えてくるのは、政治家になることを目的に政治家になってしまっている人達ばかりが執政しているからなのではないかと云う疑念である。

本来国の大事を憂いてそれを解決すべく、また地方の大事を憂いてそれを解決すべく、国政の議員へ、あるいは地方の議員へと進むのが道理と思うが、そこには目的の大儀がなく、只政治家になるのが目的で政治家になってしまった様に思える。すなわち、志が見えない、志のなき者は中心が定まらない、中心の定まらない者はこの世を彷徨ってばかりいる。

したがって、日本の政治が「フラフラ」して、事態を取捨しきることができない理由も「中心が定まらない」事が理由になっていると言えるのだ。中心を見失った人はこの世をさまよう、裏を返せば、「彷徨う」とは中心を探している事に他ならないとも言えるのだが、「仮免許中」のわが国の政治が彷徨ってしまうのは仕方が無いのだろう。しかし、「仮免許中」の政治家にすべてを委ねなければならないわが国の国民も気の毒というしかない。

これらのことは団体であれ個人であれ全て同じである。地球市民の会も他山の石となし、自らの中に中心を定めていく努力と反省を重ねて活動を進めていかなければならない。

さて、かつて英国の世界的歴史学者、アーノルド・トインビーが昭和42年の秋、二度目の訪日の折、伊勢神宮に参拝して「この聖地において、私は、すべての宗教の根源的統一性を感得する」と感動して、毛筆で記帳されたと言われている。

伊勢神宮とは我々国民が住んでいる日本国全土に何万社と有る氏神様の総本社である。氏神様とはその地に連綿と生きながらえた人々=ご先祖様(この場合直系の血族だけを示すのではなく、すべての先人との「いのち」のつながりを言う)のことだ。したがって、各地の氏神様を通して伊勢神宮に私達日本人のすべての先祖霊が鎮まるのである。

この氏神様の総本社である伊勢神宮の祭司は皇室からでなければならない様になっている。天皇陛下が毎朝、長時間行われている四方拝の儀式は私達の祖霊に対して行われているのである。つまり、天皇陛下のお役割は日本中の先祖をご供養なさることである。

トインビーの言われた「宗教の根源的統一性を感得する」やアインシュタインの言われた「アジアの東の国の最も古い家柄の盟主をたてて世界は1つになるであろう」という外国の方々が発する言葉は、日本が古来より大切にしている先人に心を繋ぐことを中心に据えている文化が、この地球においても重要であり、また大事であることを訴えているということである。

私たちは今こそ、夫々各自のご先祖、先人に心を繋ぎ、自分たちに中心を定め明日に進まねばならない、それが「志」であり、まさしく「世界の犬政奉還」である。

●アーノルド・トインビー (Arnold Joseph Toynbee, イギリスの歴史学者。西欧中心の歴史観でなく、イスラム、仏教、それに特殊な存在としての日本にも着目して、各文明国の発展を描いた『歴史の研究』(原著1934-1961年)全25巻がもつとも有名である。